2017年春の年会

福島第一原子力発電所廃炉検討委員会セッション

「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」活動報告

Periodical Report from Study Committee on Decommissioning of The Fukushima Daiichi NPP

(2)事故課題フォロー分科会(事故進展に関する未解明事項フォローWG)の取り組み

(2) Activity of Subcommittee on Follow-up of Unresolved Issues of the Accident from AESJ

事故課題フォロー分科会主査　名古屋大学　山本章夫

事故進展に関する未解明事項フォローWG 主査　東京大学　越塚誠一

1. 概要

原子力学会は、2014 年 3 月に「福島第一原子力発電所事故その全貌と明日に向けた提言: 学会事故調 最終報告書」(以下、事故調報告書)を出版し、その中で将来にわたる原子力災害防止にむけた提言をとりまとめた。学会廃炉委員会の事故提言フォロー分科会(現事故課題フォロー分科会)においては、事故調報告書の提言についての取り組み状況と、事故進展に関する未解明点のフォローを実施している。

2. 事故調提言への取り組み状況の取りまとめ

提言に対する取り組みの調査結果については、2016 年 3 月に「学会事故調最終報告書における提言の取り組み状況(第 1 回調査報告書)として取りまとめた。本文書は、原子力学会の福島第一原子力発電所廃炉検討委員会の HP よりダウンロード可能である。

3. 事故進展に関する未解明点のフォロー状況

3-1. 目的・計画

事故後 5 年が経過し、事故進展についてはかなりの知見が得られてきている。これまでに得られた事故進展に関する新たな知見、これらに基づく未解明事項の解明状況を整理し、とりまとめることは、安全性向上及び廃炉作業の計画をする上で重要である。そのため、「事故進展に関する未解明事項フォローWG」を設置し、以下の検討を計画している。

- フォローすべき課題(未解明点)を確認する。学会事故調報告書、東電未解明レポートなどを参照し、現在すでに解明された課題でも、事故直後に未解明点とされていたものを含めて整理する。
- 抽出された課題について、最新の知見を確認し、事実関係を取りまとめる。
- 残されている課題を整理し、今後、安全性向上や水平展開などの観点から優先して解明に取り組むべき課題について検討する。
- 未解明点の調査・検討に際して生じると考えられる課題を整理する(例：廃炉作業時のデータ取得に関する留意事項、データを分析する際の留意事項など)
- 企画セッションや、シンポジウムを通じて情報発信を行う。

3-2. 活動状況

2017 年 2 月までに 3 回の WG を開催し、調査する文献のリストアップ、未解明点リストの整理、未解明点に対する新たな知見の文献調査を実施中である。

3-3. 今後の予定

今後 3 回程度の WG の開催を通じ、2017 年 9 月を目処として調査結果を報告書として取りまとめる予定である。

4. まとめ

事故課題フォロー分科会の取り組み状況を取りまとめた。事故進展の未解明点に関する新たな知見の整理・収集・検討を引き続き進めていく。

Akio Yamamoto

Nagoya University